

8. トルクメニスタン人間ドック研修事業

一般社団法人 Medical Excellence JAPAN (MEJ)

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

現地では、前政権下で教育課程の短縮や医療機関の削減等の施策により、医療従事者の技能が低下。かかる中、MEJの提案により人間ドック兼医師トレーニングセンター設置の構想あり。

【活動内容】

人間ドック導入の準備段階として、現地および日本にて、人間ドックの仕組みや診断技術等についての研修を行った。他国には無い総合的かつ精緻な検診システムである人間ドックの普及を狙い、NCGMより専門家を派遣すると共に、現地保健省が選定した医師研修生を受入れた。

【期待される成果や波及効果等】

本事業により、現地保健省高官および診断センター実権者に人間ドック導入の有効性を意識づけることができ、今後は現地国内での認識の高まりが見込まれる。また、本事業を契機として、精緻な診断技術の習得に向けた医療協力のニーズが顕在化した。

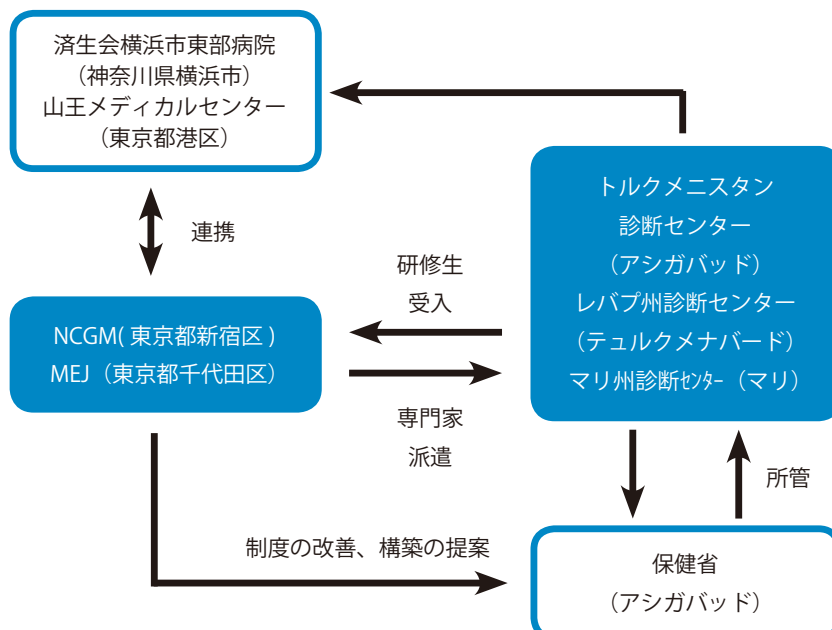
<研修実施結果>

7月 専門家派遣 (2名派遣、9名参加)

- ・人間ドックに関するセミナー開催

11月 研修生受入 (6名)

- ・日本の医療制度
- ・人間ドック
- ・放射線診断
- ・内視鏡診断
- ・救急医療
- ・人間ドック見学、病院見学



1. トルクメニスタンの概要



面積	488,000km ² (日本の1.3倍)
人口	530万人
首都	アシガバット
民族	トルクメン系(81%)、ウズベク系(9%)、ロシア系(3.5%)
言語	公用語はトルクメン語。ロシア語も広く適用
宗教	主としてイスラム教スンニ派
政体	共和制
主要産業	鉱業(天然ガス、石油など)、農業(綿花)、牧畜(世界有数の天然ガス埋蔵量)
GDP	470.9億ドル(2014年:IMF)
1人あたりGDP	8,270.5ドル(2014年:IMF暫定)



2. 厚生労働省との覚書



保健・医療分野の協力に関する

厚生労働省とトルクメニスタン保健・医療工業省との間の覚書

2013年9月11日

- ・ 内視鏡操作技術の向上
- ・ 放射線治療及び効果的な照射方法
- ・ 但し、この2分野に限ることなく、一方が希望する場合は、追加を検討

その他の外交トピックス

2012年1月	日・トルクメニスタン外交関係樹立20周年
2013年9月	トルクメニスタン大統領の来日
2015年3月	日・トルクメニスタン首脳会談
2015年10月	安倍総理大臣のトルクメニスタン訪問 (本事業実施期間中)



3. 研修事業の背景

トルクメニスタンでは、ニヤゾフ前政権(1990～2006年)の下で、
教育課程の短縮や医療機関の削減などの施策により、医療従事者の技能が低下

在日トルクメニスタン大使より、Medical Excellence JAPAN (MEJ) へ医療協力の要請

2014年 MEJがトルクメニスタンを訪問し、医療協力について協議
日本の協力による診断センター(人間ドック)等の設置を検討することで合意

トルクメニスタンでの診断センター(人間ドック)等の施設整備の準備段階として、
医療関係者に人間ドックの概念や仕組みを理解してもらう必要あり

本件 研修事業 (2015年6月～12月)

5. 実施内容 (1) 専門家派遣



派遣された国内専門家	国立国際医療研究センター 医師 2名
研修内容	人間ドックの内容と仕組み (人間ドックの起源・目的・専門性、生活習慣と癌の関連) (人間ドックの検査項目、病院の中での位置づけ) (人間ドックで発見した症例など)
研修実施日	①2015年7月22日 ②2015年7月23日
研修生の所属と職種	①トルクメニスタン診断センター 医師 6名 ②トルクメニスタン保健省、外務省 行政官 3名(次官、局長含む)



現地の診断センター



診断センター玄関



研修風景

5. 実施内容 (2) 研修生受入 ①

実施期間 2015年11月16日～20日(移動日を除く)

来日メンバー 医師 6名
 ・トルクメニスタン診断センター センター長
 ・トルクメニスタン診断センター 診断検査室長
 ・トルクメニスタン診断センター 内視鏡科長
 ・レバプ州診断センター センター長
 ・マリ州診断センター 診察科長
 ・マリ州診断センター 検査室長



NCGM研修

研修実施場所 国立国際医療研究センター(NCGM)(講義・討議・見学)
 山王メディカルセンター、済生会横浜市東部病院(見学)



厚生労働省表敬



NCGM表敬



NCGM研修

5. 実施内容 (2) 研修生受入 ②

【NCGM研修】

(講義) NCGMの概要、日本の医療制度、人間ドックの仕組み
 (討議) トルクメニスタンと日本の違い
 検診と人間ドックの違い、人間ドックの自国への導入
 (見学&講義) 放射線診断、救急医療、内視鏡診断

【病院見学】

- ・山王メディカルセンター(人間ドック見学)
- ・済生会横浜市東部病院(医療現場見学)



NCGM研修



NCGM研修



山王メディカルセンター見学



済生会横浜市東部病院見学

6. 事業の成果



専門家派遣

保健・医療工業省の高官や、首都の診断センターの医師が
日本式の間ドックの優秀性について理解
⇒ 関心の高まり

研修生受入

首都を含む各州の診断センターの医師が
人間ドックの仕組み、運営方法、診断技術を理解
診断・治療現場の見学を通じて、先進的な診断・治療を理解
⇒ 自国での人間ドック導入を志向

7. 今後の課題



トルクメニスタン政府の財政悪化（天然ガス価格の半落）により、新たな施設整備は前提条件として見込みにくい情勢。

既存施設（各州の診断センター等）を活用した、システムとしての人間ドック導入を追求。

- 課題
- ① 定期的な検査受診習慣の定着化
 - ② 精緻な診断による病巣の早期発見の技術習得

